

認知症予防対策を

認知症はゆっくりとした時間と、いてくれてありがとうという敬老の心で接すると問題行動がなくなる。早期に発見して環境を整えることが重要。

浜松早期認知症研究所の金子医師は「認知症の9割は治る」としている。高齢者が、やる気がなくなったり、指示待ち人間になった時、要支援や介護1ぐらいの時に、脳リハビリを行うことが効果的とされる。元気なうちから、認知症予防に取り組むことが望ましい。

荒川区でも今まで取り組んではいるが、ふたつの係が担当していて効果的でない。担当者を統一した方がいい。

練馬区は認知症予防推進員を養成して、出前ミニ講座を行い、グループ活動を推進し、介護家族交流会のボランティア養成も行っている。

荒川区では、ころばん体操が普及し、リーダーが熱心に活動している。ころばん体操と連携し、リーダーを養成する、また、認知症サポーター養成講座と連携して認知症の予防と支援にとりくんだらどうか。

区：取り組みを強化したい



口腔ケアの充実を

認知症予防には「噛む」ことが効果的といわれる。総入れ歯や入れ歯をしていない高齢者に認知症のリスクが高くなるが、歯ぐきのマッサージやうがい代わりになるという。リハビリでも歯科治療をリハビリの出発点と位置付け、脳卒中の後遺症などの食事や飲み込み歩行などの障害の機能回復や肺炎予防につなげる動きがある。介護予防・認知症予防にもっと口腔ケアの大切さを区民に周知すべきではないか。

区：口腔ケア教室を行っているが、さらに推進していく

せの：区の職員配置は

区：歯科衛生士は非常勤1名

せの：歯科医師会との連携なども含め、積極的な取り組みを要望する。



看取りの充実を

昨年私が問題提起した、区内特養ホームで穏やかな看取りができる体制づくりは進んでいるか。職員の取り組みがあれば、多くの人が病院に運ばれることなく天命を全うできる。

区：区立5特養のうち3特養で看取りに取り組んでいる。本人・家族の7～8割が看取りを希望。5施設で亡くなった方の1割の看取り実施にとどまっている。支援していきたい。(p4に関連記事)



区民と共に事業仕分けを

来年度一般会計予算は、915億7千万円。厳しい経済状況の中、過去最高額となった。

「将来の財政負担等を十分に考慮」する中長期的な視点に立った財政運営を実行するため、今後、区として行うべき仕事を精査する事業仕分けを区民と共に行うべき時期に来ているのではないかと。区民の区財政への理解を高める意味でも、ぜひ、検討してほしい。